

町への感謝を忘れず、 いつか必ず恩返しをしたい

鈴木 龍弥さん(徳山区)

小 学生の頃はソフトボール、中学・高校では野球部に所属していました。この時に学んだあいさつなどの礼儀、勝負へのこだわりなどが私の基盤となっています。

さ て、私は現在、東海大学工学部 応用化学科に在学しており、

教師またはエンジニアを目指して日々勉強に励んでおります。もともと長距離を走ることが好きで陸上をはじめた私は、大学で陸上サークルに所属し、トレイルランニング・スカイランニングという競技と出会い、衝撃を受けました。トレイルランニングという競技は名前の通り山々や林道をコースに設定されたマラソン大会です。スカイランニングはその中でも標高2千メートル近い、森林限界を超えた場所を含むものを指します。この競技は山を走って登っていき、全速力で駆け下ります。日本ではまだまだマイナーなスポーツですが、ヨーロッパではかなり盛んな競技です。川根本町は、見渡せば周囲は山々に囲まれています。私はいつか、この町にトレイルランニング大会を誘致し、多くの人にこの町を知っていただき、また町おこしにつなげたいと思っています。

タ イムも順調に伸び、陸上競技やトレイルランニングをとにかく楽しんでいました。私ですが、人生の分岐点になるであろうことが起こりました。昨年10月に事故により左足首を骨折し、「走れるまで3カ月かかる」と言われた時には、本当に頭の

中が真っ白になりました。手術を受け、1カ月は一切足をつけてはいけな

いと医師に言われましたが、私の気持ちは足が折れていても走るというものでした。しかし、静岡県市町対抗駅伝・川根本町チームのスタッフの方々、大学サークルの先輩方は、私を代表のメンバーから外しました。そして今、無茶をしてこれからは棒に振ったらどうするんだと声を掛けてくれました。こんな一瞬の事故で今まで目標にしてきた大会を走れないのが、チームにどれだけ迷惑を掛けるんだらうと考えると本当に悔しく情けなかつたです。しかし、この悔しさを味わえたことで、私はさらに成長していけると思っています。

事 故により家族、祖父母にはとてもつらい心配と迷惑を掛けました。私たち新成人はこれまでの20年を育ててもらった感謝を忘れず、それぞれの人生を全うしていきます。また私たちの育った町である川根本町は確かに田舎ですが、この町を出て勉強、もしくは働く私たちに

のいい故郷です。

町民の皆さんの温かさに触れ、いつの間にか笑って会える素晴らしい仲間と自然豊かなこの川根本町で育ってこれたことを私は誇りに思っています。社会の一員としてこの町への感謝を胸に、いつか必ずこの町に恩返しすることを誓いまして新成人代表の言葉に代えさせていただきます。

赤土 香澄さん
(久野協区)



記念品受領
Kasumi Akatsuchi

今、皆さんは、大人の仲間入りをして、どんな気持ちでいますか？私も、8年後には、今の皆さんと同じ成人になります。皆さんの夢は、もう実現していますか。それとも、これから実現しようとしていますか。私は将来、周りの人を笑顔にできる大人になりたいです。今、私には、夢があります。パティシエになることです。パティシエになり、店に来てくれたお客さんが笑顔で帰って行ってくれたら、うれしいです。大人になったみなさんは、きっとこれからいろいろな新しいことや、やりたいことに向かって、突き進んでいけることでしょう。

私も笑顔を忘れず努力して、自分の夢を叶えたいと思います。これからも自分の夢に向かってがんばってください。



本川根小学校6年
小林叶愛さん

感謝の気持ちを胸に、
私らしく元気に頑張る

塩崎 彩織さん(藤川区)

私

は、高校卒業までの18年間で、この緑豊かな川根本町で過ごしてきました。その18年間は、あつという間に過ぎ去ってしまいました。多くの思い出が、私の記憶の中に深く刻み込まれています。そして、多くの経験が私自身を成長させてくれました。両親に教えてもらった「常に明るく元気である」という前向きな姿勢、ソフトボールスポーツ少年団の監督が教えてくれた「感謝をする気持ち」、切磋琢磨し合った友人と共に学んだ「あきらめない心」「学校生活で育んだ」「何事にも挑戦する精神」、そしてこの町が教えてくれた「人の温かさ」。全てが今の私の基盤となっているものです。

現

在私は、交通安全協会藤枝地区支部で、交通安全指導員として勤務しています。高校2年生の夏、進路に悩んでいた私に、「人前が出る仕事は彩織に合っている」と母が勧めてくれた職業でした。小学生の頃から人の役に立つ仕事がしたいという夢があった私は、母のアドバイスを受け、何の迷いもなく、交通安全指導員という職業を選びました。今思えばこの職業を勧めてくれた母には感謝の気持ちでいっぱいです。

こ

の仕事を始めてから、今年の4月で2年が経とうとしています。はじめは、指導員としての仕事や社会人としてのマナーなど、覚えるべき事がたくさんあり、この仕事に果たして自分に務まるのかと不安でした。初めて行った交通教室で、多く

の児童が注目する中、先輩の自信に満ちた生き生きとした交通講話を行っていた姿を目の当たりにしました。心から「格好いい」と思いました。

それと同時に「私も人前でこんな風に話せるようになりたい」というあこがれと、「これからこんなすごい人たちと一緒に仕事ができるんだ」という喜びが湧いてきました。

そ

れからは、先輩の話している様子や言葉遣いなど、多くの事を目で見、耳で聴き、家に帰ってからも必死に勉強しました。そして、今まで小さな子どもから、ご高齢の方まで、さまざまな方を対象に交通講話を行ってきました。それぞれ年代が違いため、話す内容や口調、ちょっとした言葉の使い方にも工夫が必要になり、上手く相手に自分の言いたいことが伝えられず、悔し涙を流したことは、今でも忘れられません。それでも私が一度も辞めたいと思わずに、「ここまでやってこられたのも時に優しく、時に厳しく指導してくださった先輩方や、いつも温かく見守ってくださる職員の方々、そして陰で支えてくれている家族の存在があったからです。今後も感謝の気持ちを胸に、私らしく明るく元気に過ごしていきたいと思っています。

私

はこれからも、交通安全指導員の一人として、交通事故によって悲惨な思いをする方々が少しでも減るよう、日夜、自分自身の戦いとして、職務を全うしていくことを誓い、新成人代表の言葉といたします。

川根高等学校2年
内藤響貴さん

成人の日を迎えられた皆さん、本日はおめでとうございます。私が小学生の頃から、皆さんの姿をいろいろな場所でよく見掛けました。誰にでも気持ちの良いあいさつをしている姿や部活動に一生懸命励んでいる姿は、とても印象的でした。

また、皆さんは、地域の活動で大人に混ざり率先して活動し、私たちを優しくリードしてくれました。皆さんと一緒に活動できたことは、とてもうれしく、誇らしかったです。今日の新成人の皆さんも自信に満ちていて堂々とされています。皆さんは私たちのあこがれです。私たちは皆さんの背中を見て、その後を追いかけていきたいと思っています。そして、6年後、皆さんのように立派な成人となり、この場に立ちたいと思っています。

中川根中学校2年
小田健太さん

皆さまは、社会に出て就職している方や大学や専門学校などで勉学に励む方、さまざまな方がいらっしゃると思います。そんな先輩方の活躍されている姿を先生方から聞くと、我々後輩は「自分も頑張ろう」「自分も先輩のようになろう」とやる気に満ちあふれます。

成人とは人生の中で、大きな節目です。成人し大人になり、自分一人でやらねばならないことや、守らなければならないことが増えたと思います。責任や、やるべきことが増えるということは、私たち後輩よりも、やれる事の上限が増えたということになります。私は、皆さまに社会をもっと良くする力があると思います。先輩方のこれからの活躍をお祈りしております。